

令和7年度の審議内容の振り返り 次期ビジョンの構成等について

令和8年6月

(京都市上下水道事業審議会資料)

令和7年度の審議内容の振り返り

次期ビジョンの位置付け・現行ビジョンの構成等

審議会で議論いただきたい事項



- ・ 令和7年度は審議会を3回開催

第1回
(R7.8)

- ・ 審議会への諮問
- ・ 京都市の上下水道事業の現状と課題、次期ビジョンの策定に向けて

第2回
(R7.12)

- ・ 今後の施設整備の方向性＜施設マネジメントの検討結果等＞
- ・ 今後の財源の在り方＜水道事業における現状・課題、今後の見通し＞

第3回
(R8.3)

- ・ 今後の施設整備の方向性＜水道事業・下水道事業の今後の整備方針＞
- ・ 今後の財源の在り方＜下水道事業における現状・課題、今後の見通し＞



- 第1回は「上下水道事業の現状・課題、次期ビジョンの策定」をテーマに審議

【現状・課題、次期ビジョン】主な意見

- 上下水道は市民生活に必要不可欠であり、安定的に供給することが最優先であることを念頭に置く必要がある。
- 市民に対してリスクも含めた課題認識を共有し、料金負担を含めた議論を正面から行うべきではないか。
- 水を使ったから料金を払うという感覚ではなく、自分たちの上下水道を守っていくための必要な投資と考えてもらえるような視点が必要。
- 担い手不足は、民間事業者も深刻であり、事業者を巻き込んで、考えなければならない。
- 人口減少の中、ダウンサイジングについても検討しなければならない。

諮問書

京都市上下水道事業審議会会長 様

本市の上下水道事業を取り巻く経営環境は、今後、節水型社会の定着や人口減少による水需要の減少に加え、施設の老朽化の加速や担い手の不足など、一段と厳しさを増していくと見込まれます。そのような中でも、長期的な視点に立ち、市民生活を支える重要なライフラインである上下水道を守り続ける必要があります。

このような状況を踏まえ、将来にわたり安全・安心で持続可能な上下水道事業を継続して運営していくため、今後の事業の方向性や財源のあり方についての貴審議会の御意見を頂きたい、ここに諮問します。

令和7年8月6日

京都市公営企業管理者上下水道局長 吉川 雅則



- 第2回は「施設整備の方向性」、「今後の財源の在り方（水道）」をテーマに審議

【今後の施設整備の方向性】主な意見

- 施設整備においては、水需要の減少等に応じて、**ダウンサイジング**を検討しなければならない一方で、**リダンダンシー※**の確保（バックアップ体制）も考えていかなければならない。
（※）一部が壊れても、全体が止まらないための「予備」の仕組み
- 安定供給はしっかりと維持していく必要があるが、**事業全体**で見たときに**効率化**していくことも必要。**浸水対策**などこれまでの対策により一定の成果を上げているものについては**効率化の余地**があるのではないかと。
- 事業量の平準化の考え方については、**財政面等の効果以外**に、民間事業者にも毎年継続して発注できることによる、**工事力の確保や技術継承の観点**で非常に重要。
- 「先送りによる収支均衡から適切な投資・経営へのシフト」や「更新投資を先送りしない適切な料金設定」については国が特に強く打ち出している方針である。

【今後の財源の在り方（水道）】主な意見

- 他都市と比べて高い水準にある企業債残高は、現在の水準を上げないようにすべき。**企業債充当率については、50%を超えないよう留意**すべき。
- 災害等への備えや金利上昇等に対する経営リスク管理の考え方も重要であり、**他都市を参考に企業債残高や積立金、内部留保資金等の経営目標を設定**すべき。
- **危機的な財政状況や安価な水道料金を維持してきた背景（企業債への依存、経営努力等）をしっかりと市民へ周知**していくべき。情報発信に際しては、京都市の魅力低下に繋がらないよう配慮が必要。
- **資産維持費の水準は、過去に財源の多くを企業債に依存してきた経過や、今後の必要な整備計画を踏まえつつ、インフラを維持するための妥当なレベル感**である必要がある。
- **様々な方法で収入確保に努める**べき。



- 第3回は「施設整備の方向性」、「今後の財源の在り方（下水道）」をテーマに審議

【今後の施設整備の方向性】主な意見

- 管路更新については、防災上の重要施設への接続、耐震管率の向上、老朽管の早期解消など様々な視点のバランスを考慮し、優先順位付けを行っていくことが重要。特に水道事業では初期ダクトイル鋳鉄管以外の管も含めた効果的な更新の検討が必要。
- AIや高精度カメラを用いた点検など、新技術を積極的に活用し、迅速な対応につなげていくことを期待する。
- 市町村の枠を超えた広域的な取組を考える際、「高低差」が重要なキーワードとなる。カーボンニュートラルを意識した広域連携の検討が必要。
- 限られた財源の中で、安定供給を維持しつつ、環境性を重視し、かつコストを抑えるという、相反する3つの価値のバランスをいかに取るかが重要である中で、1つの施策で複数の価値を創出していくことが大事。

【今後の財源の在り方（下水道）】主な意見

- 人口減少が進む中、人口1人当たりの企業債残高を重視すべきではないか。人口減少局面での企業債に依存した事業運営は将来への負担の先送りに繋がる。
- 建設改良積立金を20年間で400億円確保するという目標が厳しい見通しであり、今後の在り方の検討が必要。
- 将来の改築更新や耐震化のために財源を確保し、安定的な経営を継続するために、資産維持費を明確に位置付けたうえで使用料のあるべき水準を考えるべき。
- 厳しい経営状況だけではなく、料金水準やこれまで実施してきたサービス面、収入確保の取組などについて、もっと情報発信をすべき。

令和7年度の審議内容の振返り

次期ビジョンの位置付け・現行ビジョンの構成等

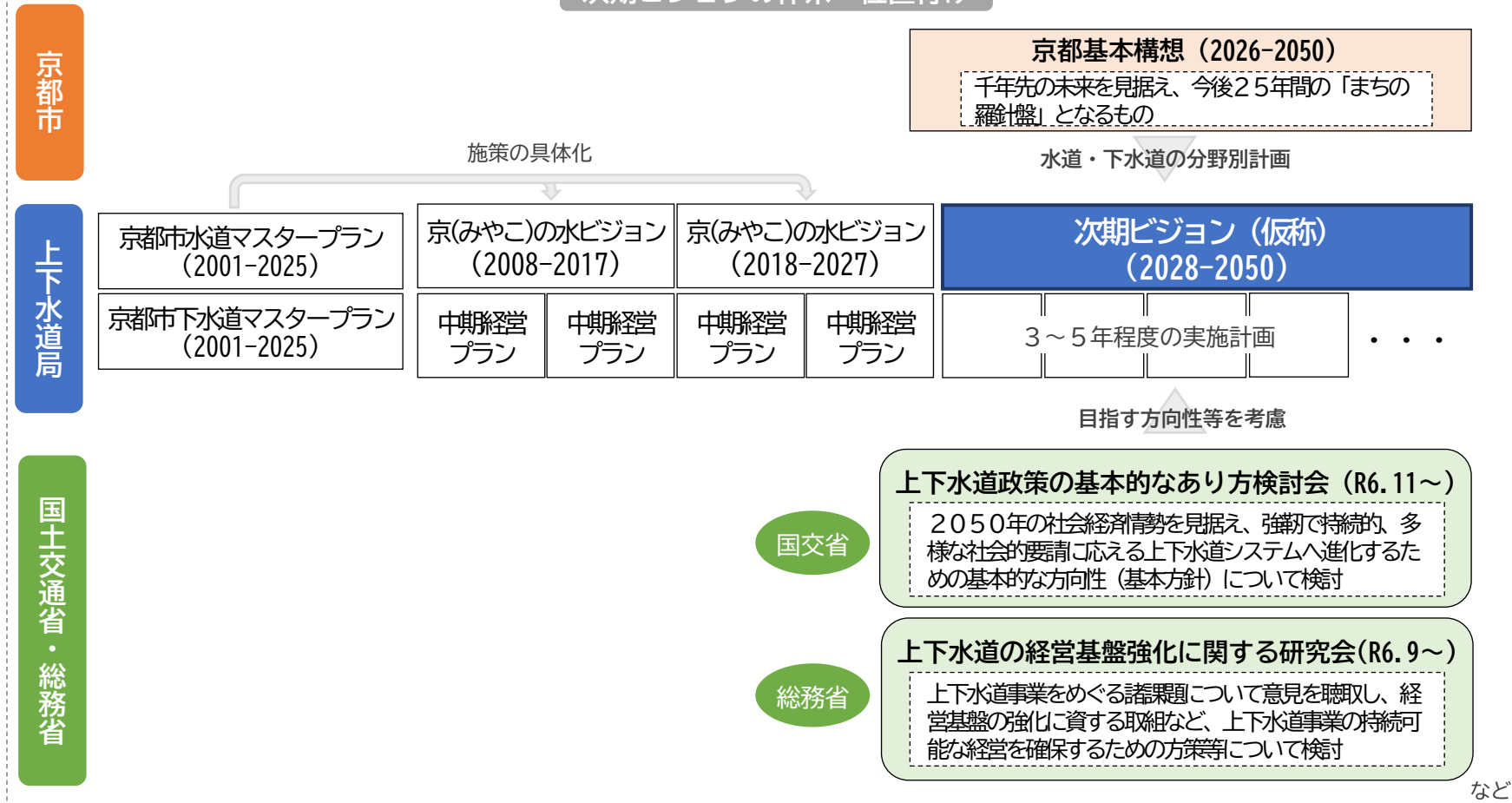
審議会で議論いただきたい事項

次期ビジョンの位置付け



- 上下水道局の現行ビジョン（計画期間：10年間）は、令和9年度末で終期を迎える
- 令和10年度以降の次期ビジョンについては、これまで以上に長期的かつ幅広い視点を持った目指すべき姿と方向性を示すため、「京都基本構想」の計画期間や国の検討状況等も踏まえ、2050年（令和32年）までの計画期間を予定

次期ビジョンの体系・位置付け





上下水道政策の基本的なあり方検討会（国交省）の第1次とりまとめでは、今後の方向性の1つとして「適切な投資・経営計画」の考え方が示されている

「上下水道政策の基本的なあり方検討会」第1次とりまとめの概要

強靱で持続可能な上下水道に向けた組織・経営改革の始動～「最」重要インフラ 上下水道を次世代に守り継ぐ～ ②

強靱で持続可能な上下水道を実現するための基盤の強化に向けた取組の方向性

(1) 単一市町村による経営にとらわれない経営広域化の国主導による加速化

① 経営広域化を加速化させる方針・責務の明確化と意識改革

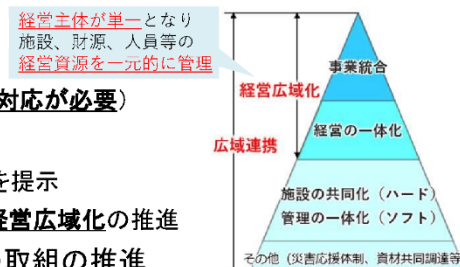
- ・ 危機感の醸成や経営広域化の効果の明確化による意識改革
- ・ けん引役としての都道府県の役割をはじめ、関係者の責務の明確化（下水道については制度的対応が必要）

② 経営広域化の規模等についての考え方

- ・ 経営広域化の取組が特に必要な規模等について、対象人口や職員数も踏まえた一定の考え方を提示
- ・ 都道府県単位やそれ以上の広がり視野に入れたエリアの考え方の提示。上下水道一体での経営広域化の推進

③ 上下水道DXの標準実装、資機材規格の統一など経営広域化を円滑に進めるための取組の推進

④ 経営広域化を加速する国主導の取組（ロードマップの策定、モデル事業等による圏域形成支援、インセンティブ検討、財政支援の集中化等）



(2) 更新投資を適切に行い次世代に負担を先送りしない経営へのシフト

① あらゆる関係者や国民と健全な危機感を共有するための経営課題の見える化（水道カルテに加え下水道カルテの公表等）

② 先送りによる収支均衡から適切な投資・経営計画へのシフト（メリハリをつけた点検・更新の考え方や多様な経営改革手法の提示等）

③ 更新投資を先送りしない適正な料金設定等の考え方の更なる明確化（資産維持費※の明確化、下水道については制度的対応が必要）

※料金算定において考慮すべき、将来の更新投資等の原資として積立が必要な額

④ 料金等の地域格差や料金等の水準に関する考え方の提示

(3) 官民共創による上下水道の一体的な再構築と公費負担のあり方の検討

① 官民共創による上下水道の一体的な再構築、関連施策のシナジー効果の発揮

- ・ 広域型・上下水道一体・他分野連携（群マネ）など質の高いウォーターPPPの推進（全体最適を意識した、より質の高い枠組みへの重点支援等）
- ・ 官民共創に資する、バックキャストによる計画的な取組の推進（基盤強化に向けた国による基本方針や都道府県計画・協議会制度の活用等）
- ・ 今後検討すべき事項：上下水道一体によるシナジー効果の整理、集約型と分散型のベストミックスの推進、人材確保・育成、強靱化のあり方 等

② (1) (2) 等による経営基盤強化の取組の推進や、強靱化の加速化、公益性の観点も踏まえた、公費負担のあり方の検討



第2次とりまとめでは、「複数自治体による一体的事業運営」、「集約型・分散型のベストミックスによる施設の最適配置」の考え方が示されている

上下水道政策の基本的なあり方検討会 第2次とりまとめの概要

「複数自治体による事業運営の一体化」と「集約型・分散型のベストミックスによる施設の最適配置」

基本認識

- 事業運営** 人口減少に伴う収入の減少、職員数の減少、維持管理業務の拡大
→ 広域連携に伴う事業規模拡大による業務執行体制の強化を
- 施設配置** 更新需要の増大、人口減少に伴うシステム効率の低下
→ 集約型・分散型のベストミックスによる施設の最適配置を

強靱で持続可能な上下水道インフラを
次世代に守り継ぐ

という、将来に対する使命を果たす!!

取組の方向性

(1) 複数自治体による事業運営の一体化

執行体制の強化に向けた事業運営の一体化をはじめとする広域連携を
国主導で推進

- ① 国の基本方針策定や各主体の責務の明確化、都道府県による広域連携の推進
(都道府県による協議会の設置、広域連携推進のための計画策定)
- ② 様々な広域連携の取組を可能とする制度の充実
(都道府県による公共下水道の管理や復旧代行、大都市等による維持修繕・改築代行制度)
- ③ 事業運営の一体化に向けた取組を支える財政支援(個別補助事業)
- ④ 事業運営の一体化に取り組みやすくする仕組み(資機材規格・仕様統一、積算基準整備)
- ⑤ 事業運営の一体化の規模等の考え方とメリットの共有
(都道府県単位やそれ以上の広がりも視野に入れ、少なくとも10万人程度の人口規模を確保)
- ⑥ 地元企業が長期的に安定して参画できる広域型の「水の官民連携」の推進
(地元企業が主体的に参画できる仕組みづくり)

(2) 集約型・分散型のベストミックスによる施設の最適配置

人口減少により既存の集約型システムが非効率となる地域は、
多様なシステム・技術を組み合わせ、分散化など「施設の最適配置」を推進

- 【水道】
- ① 給水区域内の集約型と分散型のベストミックスの実現
(分散型を導入する場合の考え方、制度上の位置づけ、手続き等の整理)
 - ② 分散型システムのDX技術開発、効率的な維持管理手法の構築
(分散型システムの技術開発の推進、広域連携や他のインフラ分野との連携)
 - ③ 小規模水道の今後のあり方
(全ての国民が将来にわたり持続的に安心して水を使用できるよう、水道法適用外の水道を含む小規模水道のあり方をナショナルミニマム確保の観点から引き続き検討)
- 【下水道】
- ① 汚水処理システム全体の最適化(集約型・分散型のベストミックス)
(下水道整備予定区域を厳選する考え方の提示、ベストミックスの再点検)
 - ② 下水道区域の縮小・廃止に係る手続きの明確化
(分散型システムに転換する手続きの明確化)

(3) 上下水道を将来に繋ぐための人材確保・育成

- ① 人材確保に向けた広報手法の確立と産学官連携体制の構築(リアルな広報、モデル事業)
- ② 生産性向上による処遇・労働環境改善(DX実装、積算基準整備)
- ③ 広域的な人材確保・育成のネットワーク構築(他分野連携、専門人材プール機関の活用)

(4) 老朽化対策を着実に進める経営の実現

- ① 危機感を共有する経営課題の見える化(維持管理情報の公表)
- ② 更新を見据えた適正な料金設定の考え方の明確化
(算定基準の明確化や収支見通しの公表)
- ③ 経営基盤強化の加速化
(国土強靱化、事業運営の一体化、分散化、複線化等への財政支援)



事業運営の一体化と施設の最適配置(イメージ)

出典：国土交通省資料（上下水道政策の基本的なあり方検討会）



- これまで10年間のビジョン、その前期・後期5年の実施計画であるプランに基づき事業を推進



京（みやこ）の水ビジョン
(2008-2017)

京（みやこ）の水ビジョン —あすをつくる—
(2018-2027)

中期経営プラン
(2008-2012)

中期経営プラン
(2013-2017)

中期経営プラン
(2018-2022)

中期経営プラン
(2023-2027)

2008
(H20)

2018
(H30)

2027
(R9)

ビジョンとプランの関係性（現行）



- ビジョンに記載した事業内容を実施計画であるプランで具体化



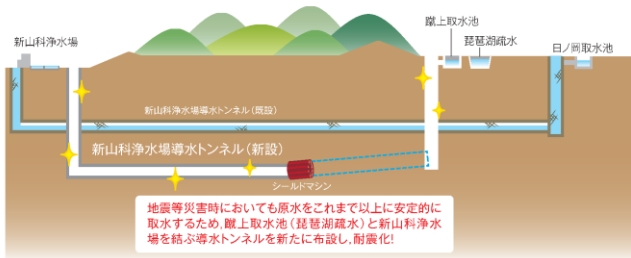
ビジョン
(10年間)

取組③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化

浄水場等の施設について、安定して水道水をつくり続けるために、一定の予備力を確保しながら将来の施設規模等を考慮して、優先順位の高い施設から改築更新・耐震化を推進します。

主な取組内容

- 建設から約50年が経過した新山科浄水場導水トンネル（同浄水場は、市内の約半分の給水量を担っています。）を更新・耐震化します。
- 新山科浄水場の浄水施設、主要浄水場の配水池等の基幹施設について、将来の施設規模を考慮して、改築更新・耐震化を推進します。



2 効果

- 水質監視を強化することで、水質の変化・異常に対して、より迅速に対応することが可能となります。
- 最適な浄水処理の実施と水質管理の充実により、水質基準を遵守し、安全・安心な水道水を供給することができます。
- 基幹施設の改築更新・耐震化を推進することで、花折断層等を震源とする大地震が発生した場合でも、水道水をつくり続けることができます。

3 目標

項目（指標名）	現況（2017年度末見込）	2027年度末目標
異臭（かび臭）のない水達成率 ^{※1}	99.1%	100%
導水施設の耐震化率 ^{※2}	26.8%	62%
浄水施設の耐震化率 ^{※3}	51.0%	100%
配水池の耐震化率 ^{※4}	28.1%	73%

10年後



プラン
(各5年間)

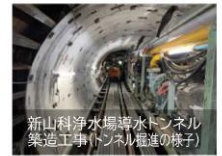
方針① つくる 取組③ 安定的に水道水をつくるための水道基幹施設の改築更新・耐震化

○ 導水施設の更新・耐震化

地震等の災害時でも、原水をこれまで以上に安定的に取水し、水道水を作り続けるために、前期プランから引き続き、建設から50年以上経過し老朽化している新山科浄水場導水トンネルの更新・耐震化を進めます。

○ 水道基幹施設の改築更新・耐震化

浄水施設や配水池等の基幹施設について、一定の予備力を確保しながら将来の施設規模等を考慮して、可能な限り延命化を図りつつ、優先度の高い施設から改築更新・耐震化を推進します。



目標

	令和4年度末見込	令和9年度末目標
・導水施設の耐震化率 ^{※1}	27%	62%
・浄水施設の耐震化率 ^{※2}	76%	100%
・配水池の耐震化率 ^{※3}	54%	69%

※1 耐震対策の施された導水施設により災害時でも安定取水できる浄水場の施設能力 ÷ 全浄水場の施設能力

※2 耐震対策の施された浄水場の施設能力 ÷ 全浄水場の施設能力

※3 耐震対策の施された配水池等有効容量 ÷ 配水池等有効容量

取組③ 安定的に水道水をつくるための水道基幹施設の改築更新・耐震化				
○ 導水施設の更新・耐震化				
・新山科浄水場導水トンネル築造工事実施	⇒	⇒	⇒	⇒ (R10年度運用開始予定)
○ 水道基幹施設の改築更新・耐震化				
・新山科浄水場1系浄水施設改良工事着手	⇒	・同工事完了		
			・新山科浄水場4系浄水施設改良工事着手	⇒ (一部工事完了) (R10年度完了予定)
・新山科浄水場低区1・2号配水池耐震化工事着手	・新山科浄水場低区1・2号配水池耐震化工事実施	・同工事完了		
				・蹴上浄水場中央監視制御設備更新工事着手 (R10年度完了予定)

➡ 次期ビジョンは2050年までの23年間、実施計画のプランは3～5年の期間を予定

京（みやこ）の水ビジョン—あすをつくる—（2018-2027）冊子構成

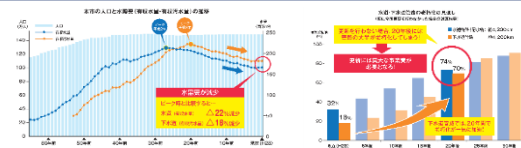
目次

第1章 策定の経緯	1
1 策定の目的	2
2 計画期間	2
3 本ビジョンの位置付け	3
第2章 京都市の水道・下水道	5
1 水道事業の概要と現況	6
2 公共下水道事業の概要と現況	8
3 琵琶湖疏水	10
第3章 事業を取り巻く背景・課題	11
1 厳しさを増す経営環境（水需要の減少と管路や施設の老朽化）	12
2 安全・安心な水道水の供給と水環境の保全	15
3 大規模災害等を機に高まる防災・危機管理の重要性	16
4 お客さま満足度の更なる向上	17
5 環境負荷の少ない低炭素・循環型まちづくりの実現	19
6 技術継承と市民・事業者の皆さまとの連携	20
7 求められる役割の多様化	21
8 他都市との比較から見る経営課題	22
第4章 ビジョンの全体像	23
1 基本理念	24
2 取組の構成	25
3 目指す将来像	30
第5章 取組の方向性	33
視点① 京の水をみらいへつなぐ	34
TOPIC① 施設マネジメントについて	36
TOPIC② 水道配水管の更新・耐震化について	40
TOPIC③ 京都市上下水道局の事業・防災拠点について	48
TOPIC④ 下水道事業における浸水対策について	50
視点② 京の水でこころをはぐむ	54
TOPIC⑤ 琵琶湖疏水の魅力向上・発信について	58
視点③ 京の水をささえつづける	60
TOPIC⑥ 市民・事業者の皆さまとの連携について	62
TOPIC⑦ 長期的な視点に立った財政目標について	66
数値目標一覧	74
第6章 ビジョンの実現に向けて	77
1 中期経営プランの策定	78
2 経営評価等の実施	79
（参考）これまでの取組	81
1 「京（みやこ）の水ビジョン（2008-2017）」について	82
2 10年間（2008-2017）の取組	83
TOPIC⑧ 山間地域の事業について	88
資料編	91
○ 京都市上下水道事業の沿革	92
○ 策定までの検討の経過	96
○ 用語の解説	105

重要なテーマについてはTOPICとしてまとめています

- ・ ビジョンの位置付け、策定の経緯を記載
- ・ 京都市の水道・下水道の概要（区域図、現況数値、特徴等）、琵琶湖疏水の経過について記載

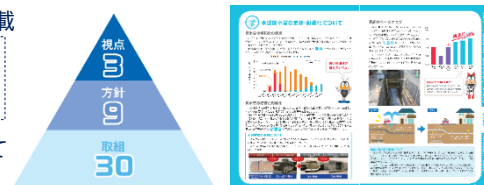
- ・ 京都市を上下水道事業を取り巻く状況として8つのテーマを記載



- ・ 局としての基本理念、取組の構成（視点・方針・取組）、目指す将来像（イラスト）を掲載



- ・ 3つの視点に連なる9つの方針、30の取組の内容を記載
- ・ 方針・取組内容について、それぞれ2ページ（見開き）を基本とし、①取組の方向性と主な取組内容、②効果、③目標の3項目をフォーマットとして構成
- ・ 特に重要となる7つのテーマについては、TOPICとして見開き2ページで現状・課題や方向性を記載



- ・ ビジョンの実現に向けたプランの策定、経営評価制度、水に関する意識調査の実施等について記載

- ・ 前回ビジョンの概要、10年間の取組内容、主な数値目標の達成状況について記載

- ・ 参考資料として、事業の沿革（年表）、ビジョン策定までの経過（水に関する意識調査、水道・下水道未来研究会、経営ビジョン策定検討部会、パブリックコメント）、用語解説を掲載

京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー(2018-2027)基本理念



- 「京(きょう)の水からあすをつくる」を基本理念として掲げる

1 基本理念

きょう 京の水からあすをつくる

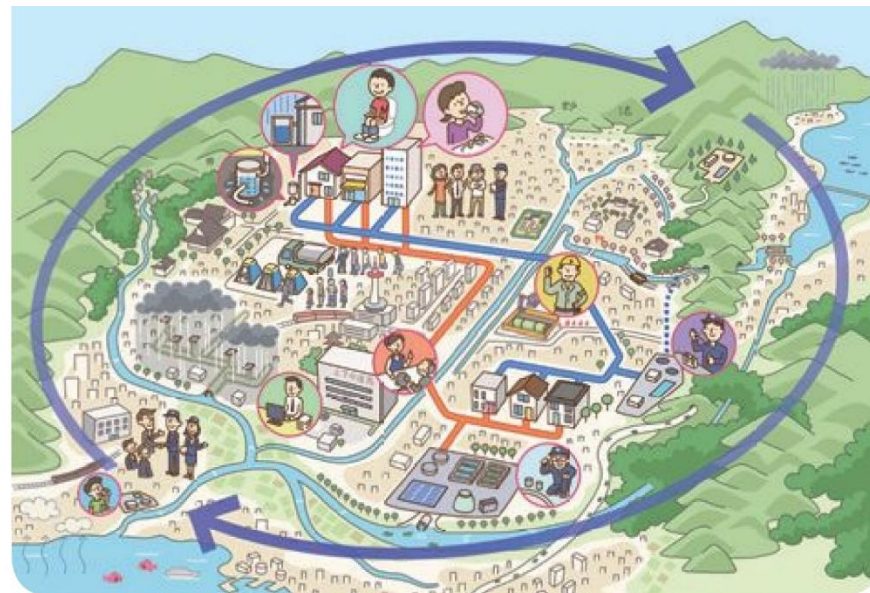
明治の先人たちが、絶えまない努力で築き上げた琵琶湖疏水から始まった本市の水道事業は100年以上、そして公共下水道事業は80年以上、市民の皆さまの生活を支え続けてきました。

本市の水道・下水道は、市民の皆さまの文化的・衛生的な生活を支えることはもとより、地震や大雨等の災害からまちとくらしを守り、大自然が営む健全な水循環の中で、琵琶湖・淀川水系の中流域に位置する大都市として下流域も含めた水環境を保全するなど、大変重要な役割を担っています。

今後、事業を取り巻く経営環境はますます厳しくなることが見込まれますが、このような状況においてこそ、水道・下水道の基本的な役割をしっかりと果たしつつ、長期的な視点かつ幅広い視野で目指す将来像を描き、その実現に向けて着実に取組を進める必要があります。

これらのことを踏まえ、本ビジョンでは、山間地域を含め、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を、50年後、100年後の将来にわたって守り続けられるよう、「京(みやこ)の水ビジョン」の基本理念である「京の水をあすへつなぐ」の考え方をしっかりと受け継ぎつつ、**市民の皆さまとともに、将来像の実現を目指す 私たち上下水道局の決意を込めて、「京の水からあすをつくる」**を基本理念としました。

ビジョン冊子
P24



京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー(2018-2027)施策体系①



- 3つの視点（目指す将来像）、9つの方針（将来像の実現のための方針）を設定

基本理念 京の水からあすをつくる

視点① 京の水をみらいへつなぐ

私たち上下水道局は、安全・安心な水道水をつくり、下水をきれいにして川へ返すことはもとより、地震や大雨等の災害から、まちとくらしを守ります。そして、琵琶湖・淀川水系の中流域に位置する大都市として、下流域の水環境を保全するなど、水道・下水道の基本的な役割について、しっかりと責任を果たします。

さらに、新しい技術の導入や周辺事業者との連携の強化を図るなど、京の水を“みらいへつなぐ”ために、挑戦し続けます。

目指す
将来像

- 安全・安心な水道水をいつでも安定して利用できる
- 衛生的な生活と良好な水環境がいつでも守られている
- 大規模地震が起こっても、水道・下水道を利用できる
- 大雨が降っても、浸水からまちやくらしが守られている
- 周辺地域や海外を含め、広い視野で事業が運営されている

方針① つくる

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

方針③ きれいにする

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

方針④ まもる

市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

方針⑤ いどむ

新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

視点② 京の水でこころをはぐくむ

私たち上下水道局は、水道・下水道に関する情報を市民の皆さまに分かりやすく伝え、皆さまの声を受け止め、ニーズに対応したサービスを提供し、期待に応え続けることはもとより、京都ならではの「こころの創生」を重視し、文化や景観、そして地球環境に配慮した“こころをはぐくむ”事業運営に努めます。

目指す
将来像

- 一人一人のお客さまが安心して水道・下水道サービスを受けられる
- 京の水を支える琵琶湖疏水の魅力がいつまでも継承され、文化や景観と融合した京都ならではの事業が展開されている
- 地球環境への負荷を最小限に抑え、事業が運営されている

方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

視点③ 京の水をささえつづける

私たち上下水道局は、市民の皆さま、そして水道・下水道に携わる事業者の皆さまと共に、50年後、100年後の将来にわたって“京の水をささえつづける”ため、これまで培ってきた技術を確実に次世代へと継承しつつ、長期的な視点に立ち、安定した経営を行います。

目指す
将来像

- 上下水道局の職員、市民や事業者の皆さまが一体となり、京の水道・下水道が守り続けられている
- 世代間の負担の公平性が保たれており、健全な財務体質により事業が運営されている

方針① になら

これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、さずなを強めます

方針② ささえる

50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

ビジョン冊子
P26-27

京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー(2018-2027)施策体系②



- 9つの方針の下に30の取組を体系的に構成



視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針	取組
①つくる 水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります	①水源から蛇口までの水質管理の徹底 ②原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進 ③安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化
②はこぶ 老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます	①配水管等の適切な維持管理の推進 ②安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化 ③安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上 ④下水道管路の適切な維持管理の推進 ⑤優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化 ⑥適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨
③きれいにする 下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します	①下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上 ②水環境保全センター施設の再構築
④まもる 市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります	①「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化 ②「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化 ③「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進
⑤いどむ 新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます	①常に発展し続けるための新技術の調査・研究 ②広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮 ③国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成



視点② 京の水でこころをはぐくむ

方針	取組
①こたえる 分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます	①お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化 ②お客さまの声を反映した新たなサービスの展開 ③京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進
②ゆたかにする 琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします	①琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献 ②創エネルギー・省エネルギーによる低炭素社会の実現への貢献 ③地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献



視点③ 京の水をささえつづける

方針	取組
①になら これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます	①将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上 ②京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携
②ささえる 50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます	①施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減 ②業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化 ③将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化 ④継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討

ビジョン冊子
P28-29

ビジョン・プランに基づく事業運営（主な事業）



視点① 京の水をみらいへつなぐ

※配備数等は令和6年度末時点

水道管路の改築更新・地震対策

老朽化した水道管路の更新を進めています。耐震性・耐久性に優れる管材料を用いて耐震化も図ります。



配水管の
更新工事

水道施設の改築更新・地震対策

浄水施設や配水池等の基幹施設について、優先度の高い施設から地震対策を進めています。



配水池の
耐震化工事

応急給水への備え

地震により水道が止まった場合でも、迅速に水を配るため、給水車や仮設給水槽を配備しています。



11台
配備済

給水車



83基
配備済

仮設給水槽

下水道管路の改築更新・地震対策

更生工法や布設替えにより、老朽化した下水道管路の更新と重要な下水道管路の耐震化を進めています。



下水道管路の
更生工事

災害用マンホールトイレの整備

災害時でもトイレ機能を確保するため、避難所となる小中学校等にマンホールトイレを整備しています。

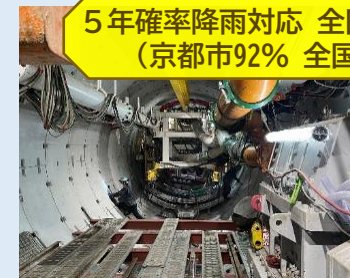


203か所
実施済

災害用
マンホール
トイレ
(左上は設置
の様子)

雨水幹線等の整備

浸水に対する安全度を更に向上させるため、大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を進めています。



5年確率降雨対応 全国トップクラス
(京都市92% 全国平均62%)

雨水幹線の
整備工事

ビジョン・プランに基づく事業運営（主な事業）

視点② 京の水でところをはぐむ

インターネットを活用したサービス

使用水量・料金照会や料金のお支払いができるスマホアプリを令和6年10月からリリースしています。



京都市
上下水道局
アプリ

琵琶湖疏水の魅力発信

びわ湖疏水船事業や琵琶湖疏水記念館を通して、日本遺産・琵琶湖疏水の更なる魅力発信を図っています。



びわ湖疏水船事業



琵琶湖疏水記念館

創エネルギー対策

大規模太陽光発電設備や下水汚泥固形燃料化施設等によりエネルギーや資源の有効利用に努めています。



大規模太陽光発電設備



下水汚泥固形燃料施設

視点③ 京の水をささえつづける

技術力の向上・技術継承

中堅・若手職員を対象とした体系的な技術研修の実施等により技術力の向上・技術継承を推進しています。



採用5年目の
技術職員を
対象とした
専門技術研修

民間活力の導入

官民連携の更なる取組として、浄水場や水環境保全センターの運転監視業務等を委託化しています。



浄水場の
運転監視等
業務の様子

保有資産の有効活用

財務体質の強化に向け、保有資産の有効活用（土地・建物の売却や貸付等）を進めています。



保有用地の
売却

令和7年度の審議内容の振返り



次期ビジョンの位置付け・現行ビジョンの構成等

審議会で議論いただきたい事項

議論いただきたい事項

次期ビジョンの構成等について

- ・ 現行のビジョン（１０年間）からより長期のビジョン（２３年間）とする前提で、現行ビジョンから引き継ぐべき点、変えるべき点はそれぞれどのようなものか。
- ・ その他、市民の皆さまに何を伝えるべきか、また、読み手に伝わるビジョンとするためにどのような工夫が考えられるか。

参考資料(他都市のビジョン)

他都市のビジョン（まとめ）（水道事業：11都市）

計画名称・期間				冊子構成（番号は構成順）												
都市名	計画名称	始点 年度	期間	位置 付け	前回 総括	理念 施策	概要 経過	現状 見通し	将来像	実施 計画	収支 見通し	進捗 管理	参考 資料	コラム	冊子	ページ
札幌市	第2次札幌水道ビジョン(2025-2034)	2025	10年間	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	有	縦	112
仙台市	仙台市水道事業基本計画(2020-2029)	2020	10年間	①	②	⑤	③	④	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無	縦	58
新潟市	新潟市水道事業経営計画～マスタープラン2034～	2025	10年間	①		③		②		④	⑤	⑥		無	横	79
さいたま市	さいたま市水道事業長期構想(2021-2030)	2021	10年間	①		⑤	②	③	④	⑥	⑦	⑧	⑨	有	縦	83
東京都	東京水道長期戦略構想2020	2020	約20年間	①		③		②		④	⑤		⑤	無	横	234
横浜市	横浜水道長期ビジョン	2016	20～ 30年間	①			②	③	④					有	縦	41
大阪市	大阪市水道経営戦略(2018-2027)	2018	10年間	①	②	③		④		⑤	⑥		⑦	無	縦	218
神戸市	神戸水道ビジョン(改定版)	2026	約25年間	①		②							③	無	横	14
岡山市	岡山市水道事業総合基本計画アクアプラン2017	2017	10年間	①		④	②	③		⑤	⑥	⑦		無	縦	96
広島市	広島市水道ビジョン	2018	10年間	①		②		③		④		⑤	⑥	無	縦	51
福岡市	福岡市水道長期ビジョン2028	2017	12年間	①		④	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧	有	縦	83

他都市のビジョン（まとめ）（下水道事業：13都市）

計画名称・期間				冊子構成（番号は構成順）												
都市名	計画名称	始点 年度	期間	位置 付け	前回 総括	理念 施策	概要 経過	現状 見通し	将来像	実施 計画	収支 見通し	進捗 管理	参考 資料	コラム	冊子	ページ
札幌市	札幌市下水道ビジョン2030	2020	10年間	①	②	⑤	③	④		⑥		⑦	⑧	有	縦	64
仙台市	仙台市下水道マスタープラン	2017	10年間	①	④	⑤	③	②		⑥		⑦	⑧	有	横	50
新潟市	第二次新潟市下水道中期ビジョン	2019	10年間			③	①	②		④	⑤		⑤	無	縦	76
さいたま市	希望つなぐ下水道プラン2030(2021-2030)	2021	10年間	②		③	①	④		⑤		⑥	⑦	有	縦	67
千葉市	千葉市下水道事業中長期経営計画(2021-2032)	2021	10年間	①		④	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧	無	縦	130
東京都	東京都下水道事業経営計画2026	2026	5年間	①		④	②	③		⑤	⑥		⑦	有	縦横	160
横浜市	横浜市下水道事業中期経営計画(2026-2029)	2026	4年間	①		②	④	⑤		⑥	⑦	③		無	縦	130
相模原市	第2次相模原市下水道ビジョン	2020	10年間	①	②	⑤	③	④		⑥	⑦	⑧	⑨	無	縦	49
大阪市	大阪市下水道事業経営戦略(2021-2030)	2021	10年間	①		④	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧	無	縦	62
神戸市	神戸市下水道事業経営計画(2020-2029)	2020	10年間	①	④	⑥	②	③	⑤	⑦		⑧	⑨	有	縦	58
岡山市	岡山市下水道事業経営計画(2026-2035)	2026	10年間	①		⑤	③	④		⑤	⑥	②	⑦	有	縦	72
広島市	ひろしま下水道ビジョン2030	2021	10年間	①		③		②					④	無	縦	74
福岡市	福岡市下水道ビジョン2026	2017	10年間	①		④	②	③		⑤			⑥	有	縦	85

他都市のビジョン（まとめ）（上下水道事業：8都市）

計画名称・期間				冊子構成（番号は構成順）												
都市名	計画名称	始点 年度	期間	位置 付け	前回 総括	理念 施策	概要 経過	現状 見通し	将来像	実施 計画	収支 見通し	進捗 管理	参考 資料	コラム	冊子	ページ
京都市	京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくる (2018-2027)	2018	10年間	①		④	②	③	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	有	縦	111
川崎市	川崎市上下水道ビジョン(2026-2037)	2026	10年間	①		④	②	③						有	横	26
静岡市	しずおか水ビジョン	2023	12年間	①		④	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧	無	縦	160
浜松市	浜松市上下水道基本計画(2025-2034)	2025	10年間	②		①		④		⑤	⑥	③	⑦	有	縦	134
名古屋市	名古屋市上下水道経営プラン2028	2017	10年間	①		④		③		⑤	⑥	②	⑦	有	縦	61
堺市	堺市上下水道事業経営戦略(2023-2030)	2023	8年間	①		④	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧	有	縦横	120
北九州市	北九州市上下水道事業基本計画2030	2021	10年間	①		④	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧	有	縦	77
熊本市	熊本市上下水道事業経営戦略	2020	10年間	①		④	②	③		⑤		⑥	⑦	無	縦	71

他都市のビジョン（①長期ビジョン：目次・施策体系）

持続可能な東京水道の実現に向けて
東京水道長期戦略構想2020

令和2（2020）年7月10日
東京都市水道局 | Bureau of Waterworks
Tokyo Metropolitan Government

東京水道長期戦略構想2020

目次

第1章 はじめに

- 1 策定の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 東京水道の長期構想の位置付け・・・・・・・・ 9
- 3 東京水道の長期構想の期間・・・・・・・・・・ 9

第2章 水道事業を取り巻く状況の変化

- 1 日本における水道事業の状況と水道法の改正・・・・・・・・ 11
- 2 東京水道を取り巻く状況の変化・・・・・・・・ 14
 - (1) 人口減少と給水収益の減少・・・・・・・・ 16
 - (2) 水道需要の減少・・・・・・・・ 16
 - (3) 浄水場更新時期の集中・・・・・・・・ 17
 - (4) 原水水質と浄水処理の現状・・・・・・・・ 18
 - (5) 労働力（生産年齢）人口の減少・・・・・・・・ 19
 - (6) 中小工事業者の減少・・・・・・・・ 20
 - (7) 財政運営（企業債の活用）・・・・・・・・ 21

第3章 事業運営の基本的な考え方

- 1 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 2 基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

第4章 東京水道が目指すべき姿（2040年代）と取組の方向性

- 1 長期的な財政状況を見据えた計画的な施設整備・・・・・・・・ 26
 - (1) 水道需要と施設整備・・・・・・・・ 29
 - (2) 大規模浄水場の更新・・・・・・・・ 35
 - (3) 多摩地区水道の再構築・・・・・・・・ 42
 - (4) 管路の更新・・・・・・・・ 49
 - (5) 災害対策・・・・・・・・ 60
 - (6) 水質・水源対策・・・・・・・・ 66
 - (7) 環境対策・・・・・・・・ 80
- 2 新技術の活用と経営の効率化・・・・・・・・ 90
 - (1) スマートメータの導入・・・・・・・・ 92
 - (2) その他のICT施策・・・・・・・・ 101
 - (3) 広報・広聴・・・・・・・・ 110
- 3 東京水道グループの総合力強化・・・・・・・・ 117
 - (1) 経営基盤（業務運営体制）の強化・・・・・・・・ 122
 - (2) 人材確保・育成・・・・・・・・ 154
 - (3) 国内・海外水道事業者への貢献・・・・・・・・ 164
 - (4) 財政運営・・・・・・・・ 171

水道事業を取り巻く状況の変化

1 施設の状況（モノ）

- ・人口減少に伴う水道需要の減少
- ・一斉に更新時期を迎える浄水場
- ・気候変動による水源や水質などへの影響

2 執行体制の状況（ヒト）

- ・労働力人口の減少
- ・高齢化の進展等による中小工事業者の減少
- ・都から政策連携団体への業務移転の進展

3 財政の状況（カネ）

- ・人口減少に伴う給水収益の減少
- ・施設の更新に伴う企業債発行額の増加

事業運営の基本的な考え方

水道事業を取り巻く状況の変化及び改正水道法の趣旨を踏まえ、独立採算制のもと将来にわたり必要不可欠なサービスを提供するため、長期的な視点に立った事業運営を検討

① 人口や水道需要が減少する中であっても、安定供給のために必要な施設整備を着実に推進

② 社会経済情勢に即したお客さまサービスの向上

③ 労働力人口の減少に対応しつつ、事業レベルを維持するために政策連携団体を含む効率的な運営体制を構築

④ 料金水準をできる限り維持し、長期的に持続可能な財政運営を行う

東京水道が目指すべき姿と取組の方向性

長期的な財政状況を見据えた計画的な施設整備

- (1) 水道需要と施設整備
- (2) 大規模浄水場の更新
- (3) 多摩地区水道の再構築
- (4) 管路の更新
- (5) 災害対策
- (6) 水質・水源対策
- (7) 環境対策

新技術の活用と経営の効率化

- (1) スマートメータの導入
- (2) その他のICT施策
- (3) 広報・広聴

東京水道グループの総合力強化

- (1) 経営基盤（業務運営体制）の強化
- (2) 人材確保・育成
- (3) 国内・海外水道事業者への貢献
- (4) 財政運営

他都市のビジョン（①長期ビジョン：目次・施策体系）



横浜水道長期ビジョン

目次

I 横浜水道長期ビジョン

第1章 横浜水道長期ビジョンの位置付け	2
第2章 横浜水道の歩み	4
第3章 将来の事業環境	6
1 水道事業を取り巻く外部環境	6
（1）人口の動向	6
（2）水需要の動向	7
（3）お客さまの生活様式の変化	8
（4）想定される自然災害	9
（5）環境・エネルギー問題	10
（6）国内の水道事業の状況	11
（7）海外の水事情	12
2 水道局の内部環境	13
（1）施設の課題	13
（2）財源の課題	14
（3）組織・人材の課題	16
第4章 目指す将来像	17
1 基本理念	17
（1）背景	17
（2）基本理念の考え方	17
2 基本姿勢	18
3 各領域における将来の姿	19
（1）「住宅」について	20
（2）「地域」について	24
（3）「都市」について	28
（4）「広域」について	32
（5）「国際」について	36
第5章 取組の方向性	39
1 安全で良質な水	40
2 災害に強い水道	40
3 環境にやさしい水道	40
4 充実した情報とサービス	41
5 国内外における社会貢献	41
6 持続可能な経営基盤	41

「横浜水道長期ビジョン」で目指す将来像

・基本理念

「暮らしとまちの未来を支える横浜の水」

横浜市水道局は、地方公営企業として、安全で良質な水を安定してお届けするとともに、地域や社会からの要請に適切に応えることで、安心な市民生活と経済・産業など活力あふれる都市活動の源となり、横浜の未来を支えていくことを目指します。

・基本姿勢

【確かな信頼】私たちは、お客さまや関係者の皆様との間に、より深い信頼

関係を築くため、水道事業体として求められる役割に全力で応えます。

【多様な連携】私たちは、民間企業などの様々なパートナーと連携することで、より質の高いサービスを提供し、水道事業の発展を推進します。

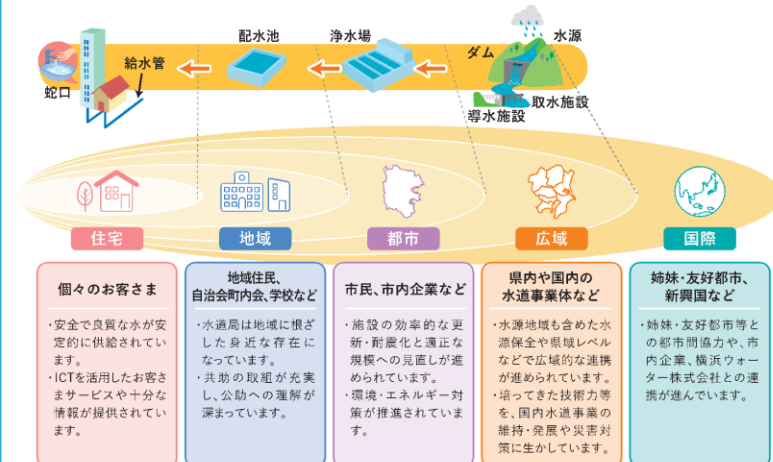
【果敢な挑戦】私たちは、現状に留まることなく変化に柔軟に対応し、困難な

状況にも果敢に挑戦して国内外の水道事業の課題解決に取り組みます。基本姿勢の「3つのC」

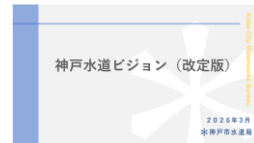


・将来の姿

お客さまや水道事業に関わる方々が、それぞれの立場で将来をイメージしやすいように5つの領域に分けた将来像を描いています。



他都市のビジョン（①長期ビジョン：目次・施策体系）



神戸水道ビジョン

「神戸水道ビジョン」の位置付け

趣旨

- ・水道事業の目指すべき方向性を示した「神戸水道ビジョン」が、2025(令和7)年度末に期間満了となります。
- ・創設125年を迎えた神戸水道において、人口減少やそれに伴う水需要の減少、施設老朽化による更新需要の増大、物価上昇、災害対応、技術継承など、事業を取り巻く環境はさらに厳しくなっていくことが想定されます。
- ・このような中、50年後、100年後の将来も安全・安心な水を安定して供給するため、水道事業の目指すべき方向性を整理し、2050年頃を見据えた基本計画として「神戸水道ビジョン」を改定するものです。

位置付け

- ・2050年頃を見据えた神戸水道の「基本理念」と「目指す姿」を設定するもので、国土交通省が策定を要請する水道事業ビジョンとしての位置付けです。また、総務省の要請により策定した「神戸水道経営戦略」の上位計画です。
- ・「神戸市総合基本計画」と連携し、「水道」に関する部門別計画としての位置付けです。

神戸水道ビジョン

50年後、100年後の将来を見据えた方向性（2016～2025）

神戸水道ビジョン(改定版)

2050年頃を見据えた基本計画

中期経営計画
2016～2019

中期経営計画
2020～2023

神戸水道経営戦略
2024～2035

【基本理念】 将来にわたり市民生活や社会活動を支え続ける神戸水道

基本理念の「将来にわたり市民生活や社会活動を支え続ける神戸水道」であるため、2050年頃を見据えて、次の目指す姿を設定します。

【目指す姿】

- ① 安全・安心な水を安定して供給する強靱な水道
- ② 健全経営かつ持続可能な事業運営を実現する水道
- ③ 利用者から信頼され次世代を見据えた水道

他都市のビジョン（②上下水道事業：目次・施策体系）



川崎市上下水道ビジョン(2026-2037)

目次

第1章 上下水道ビジョンとは

① 策定趣旨	1
② 位置づけ	1
③ 計画期間	1

第2章 上下水道のあゆみ

① 水道事業	2
② 工業用水道事業	4
③ 下水道事業	5

第3章 事業を取り巻く環境と課題

① 資産の状況	
(1) 水道・工業用水道の管路・施設の状況	6
(2) 下水道の管きよ・施設の状況	7
② 自然災害の脅威	
(1) 大雨・台風	9
(2) 大規模地震	10
③ 環境保全	
(1) 脱炭素社会の実現	11
(2) 資源の循環	12
(3) 水環境	13

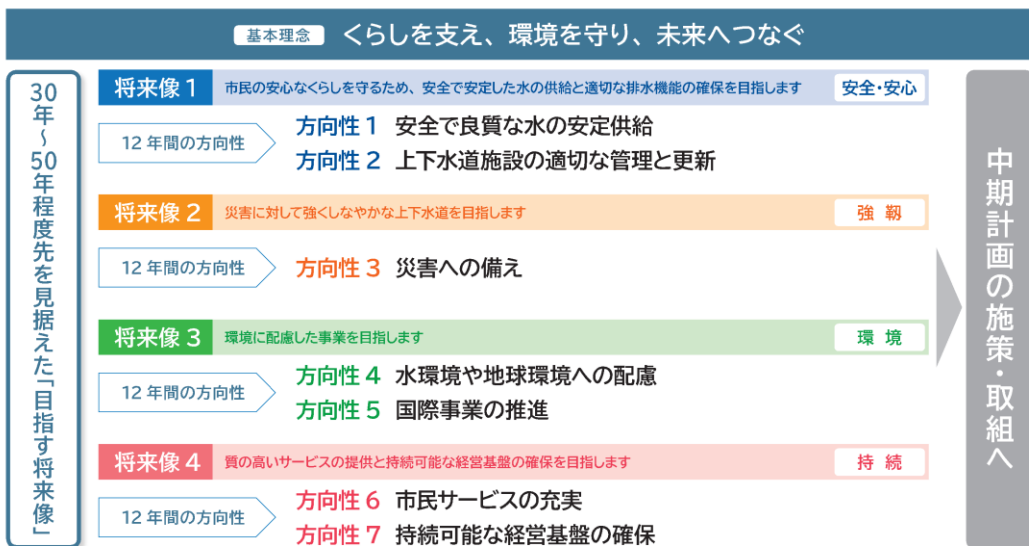
④ 世界の水と衛生	14
⑤ 人口減少への転換	15
⑥ 水需要の減少	16
⑦ 人材確保の困難化	17
⑧ 物価の高騰	18
⑨ 料金等収入の推移	19
⑩ 社会のデジタル化の進展	20
⑪ お客さまとの信頼関係とサービス	21

第4章 上下水道ビジョンの全体像

① 施策体系	22
② 基本理念	23
③ 目指す将来像	24
④ 12年間の方向性	25

1 施策体系

上下水道ビジョンは、上下水道事業の根幹的な考え方である「基本理念」、今後30年から50年程度先の将来を見据えた「目指す将来像」、目指す将来像を実現するための「12年間の方向性」で構成しています。



他都市のビジョン（②上下水道事業：目次・施策体系）



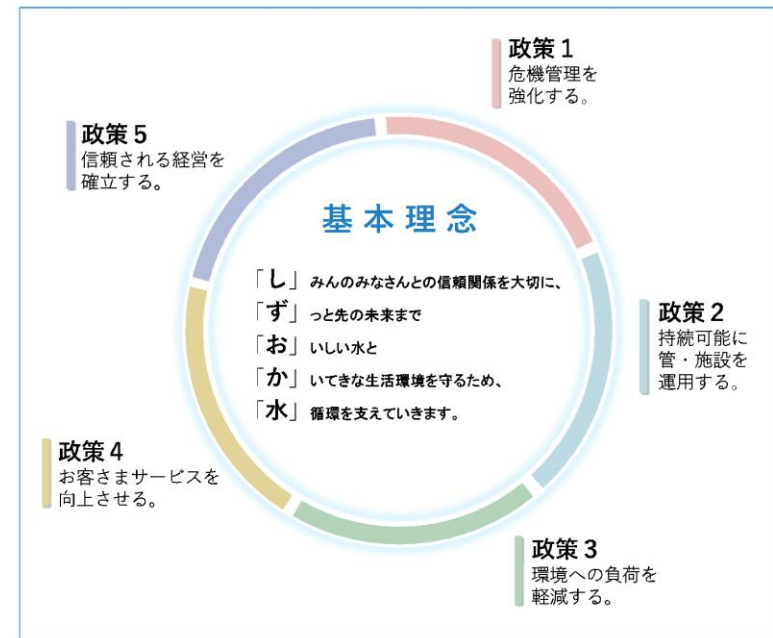
しずおか水ビジョン

目次

策定にあたって

第1章 策定の趣旨	1
1-1 策定の経緯	1
1-2 位置付け	2
第2章 水道事業・下水道事業のあゆみ	3
2-1 水道事業	3
2-2 下水道事業	4
第3章 基本構想（基本理念と5つの政策）	7
資料編	10
資料1 市民参画の状況（経営懇話会の経過など）	10
資料2 用語解説（五十音順）	16

基本構想



職員の心構え



他都市のビジョン（②上下水道事業：目次・施策体系）



浜松市上下水道基本計画(2025-2034)

目次

※本文中に下線（点線）を付した用語は
参考資料の「用語説明」で説明を掲載

第1章 総論	5	4 組織体制の強化（基本方針4）	71
1 計画策定の背景	6	（1）人材育成の推進	72
＜給水人口・排水人口の減少＞	7	（2）業務効率化の推進	75
＜事業量の増加＞	8	（3）広域化の推進	77
2 10年後の理想の姿と基本方針	9	トビックス2 浜松市上下水道部の国際貢献活動 ～インドネシアのバンドン市への支援～	79
3 計画の位置付け	10	5 持続可能な経営の推進（基本方針5）	80
4 計画の構成	11	（1）官民連携の推進	81
5 計画の進捗管理	12	トビックス3 浜松ウォーターシンフォニーによる地域貢献活動	84
		（2）遠州水道受水・農業集落排水事業の最適化	85
		① 遠州水道受水の最適化	86
		② 農業集落排水事業の最適化	87
		（3）検針・収納の効率化	89
		① メーター検針の効率化	89
		② 料金収納の効率化	90
		トビックス4 水道窓口クラウドサービスアプリ・WEBサイト「すいすい」	92
		（4）資産の整理と有効活用	93
		（5）広報・広報の推進	95
		① 広報の推進	97
		② 広報の推進	97
		トビックス5 SDGs達成に向けた上下水道事業による取組の発信	100
		（6）計画的かつ効率的な企業経営	101
		トビックス6 持続可能な経営に向けたキーワードは「資金残高」	107
第2章 現状と課題・今後の取組	13	第3章 財政収支見通し	109
1 施設強化等による防災・減災の推進（基本方針1）	14	1 水道事業	110
（1）耐震化	15	（1）収益的収支見通し	110
① 上下水道一体による耐震化	15	（2）資本的収支見通し	111
② 水道施設の耐震化	18	（3）財政収支見通し一覧	112
③ 下水道施設の耐震化	20	（4）財政収支見通しの考え方	114
（2）老朽化対策	22	2 下水道事業	116
① 水道管の老朽化対策	22	（1）収益的収支見通し	116
② 下水道管の老朽化対策	26	（2）資本的収支見通し	117
③ 浄水場の老朽化対策	29	（3）財政収支見通し一覧	118
④ 浄化センター等の老朽化対策	32	（4）財政収支見通しの考え方	120
（3）漏水・漏水等対策	34	参考資料	121
（4）雨水対策	37	1 50年間の財政収支見通し（アセットマネジメント計画）	122
（5）災害等へのソフト対策	39	（1）水道事業	123
① 防災体制の整備	41	（2）下水道事業	123
② 受援・応援体制の強化	41	2 計画策定の経過	124
③ 自助・共助の促進	44	用語説明	125
2 安全・安心なサービスの提供（基本方針2）	48		
（1）水質管理の強化	49		
（2）問い合わせ対応の強化	53		
（3）水道未普及地域への支援	55		
トビックス1 デジタル技術による水道施設文化財の保存・活用	57		
3 環境負荷の低減（基本方針3）	58		
（1）汚水衛生処理の推進	59		
① 汚水衛生処理の普及促進	59		
② 適正な放流水質の維持	62		
（2）温室効果ガスの削減	64		
（3）浄水発生土・下水汚泥の有効利用	67		
① 浄水発生土の有効利用	67		
② 下水汚泥の有効利用	69		

10年後の理想の姿

安全・安心な上下水道が地域社会の中で健全な水循環に貢献している。

基本方針

1 施設強化等による防災・減災の推進

2 安全・安心なサービスの提供

3 環境負荷の低減

4 組織体制の強化

5 持続可能な経営の推進

財政収支
見通し

今後の取組

現状と課題

他都市のビジョン（②上下水道事業：目次・施策体系）



名古屋市上下水道経営プラン2028

目次

	ページ
第1章 総論	1
1. 計画の概要	
2. 計画の進捗管理と見直し	
3. 持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み	
第2章 上下水道事業の現状と課題	2
1. 老朽施設への対応	
2. 災害への備え	
3. リニア中央新幹線の開業を見据えた都心部の発展	
4. 安心・安全でおいしい水道水の安定供給	
5. 環境保全の取り組み	
6. 健全な経営の維持	
7. お客さまの信頼の確保	
第3章 経営の基本理念・基本方針	12
1. 経営の基本理念	
2. 経営の基本方針	
第4章 事業実施計画	13
基本方針1 安心・安全で安定した上下水道サービスを提供し続けます	14
施策(1) 持続可能で災害に強い施設整備	
施策(2) 施設の健全性を確保する維持管理	
施策(3) 災害対応力の強化	
基本方針2 環境と調和しながら上下水道事業を進めます	26
施策(4) 良質な水源を生かした安心・安全でおいしい水道水の安定供給	
施策(5) 健全な水環境の創出と低炭素社会の形成	
基本方針3 健全な経営を未来につなぎます	33
施策(6) 経営基盤の強化	
施策(7) 広報・広聴を通じたお客さまとのコミュニケーションの充実	
施策(8) 広域連携・国際協力の推進	
第5章 収支計画	40
1. 収支計画の概要	
2. 水道事業会計	
3. 工業用水道事業会計	
4. 下水道事業会計	
参考1 アセットマネジメントの取り組み	48
1. 長期的な視点に立った施設の改築・更新の考え方	
2. 長期的な投資と財源の試算	
参考2 資料	55
1. 水道事業の現況	
2. 工業用水道事業の現況	
3. 下水道事業の現況	
4. 上下水道局の組織	
5. 水道事業の主な施設整備計画	
6. 下水道事業の主な施設整備計画	
7. 計画策定の経過	

第3章 経営の基本理念・基本方針

1. 経営の基本理念

信 頼

上下水道局では、「信頼」を基本理念とし、上下水道に関わるすべての方々との信頼関係を大切にしながら、持続可能な名古屋の上下水道事業の未来を共に築いていきます。

2. 経営の基本方針

上下水道事業を取り巻く現状と課題を踏まえながら、基本理念である「信頼」を将来にわたって確保していくため、3つの経営の基本方針を定めます。

基本方針1 安心・安全で安定した上下水道サービスを提供し続けます

24時間・365日片時も休むことなく市民生活や社会活動を支え続けるという上下水道の使命を果たすため、老朽施設の計画的な改築・更新や適切な維持管理により施設全体の健全度を保つとともに、災害による被害を最小限にとどめる強靱な上下水道を構築します。

基本方針2 環境と調和しながら上下水道事業を進めます

安心・安全でおいしい水道水と健全な水循環を次世代に引き継ぐため、水道水の総合的な品質管理や水環境の保全に取り組むとともに、環境にやさしい事業活動を推進し、低炭素社会の実現に貢献します。

基本方針3 健全な経営を未来につなぎます

将来にわたって健全な経営を維持するため、経営基盤の強化に取り組むとともに、ユーザーでありオーナーでもあるお客さまと上下水道の課題や将来像を共有し、理解と協力をいただきながら事業を進めます。

他都市のビジョン（②上下水道事業：目次・施策体系）



堺市上下水道事業経営戦略(2023-2030)

目次

はじめに		各政策における施策と事業の一覧	59
経営戦略に込める想い	1	05 経営戦略の実行に向けて	
堺市上下水道局の理念	2	経営戦略の進行管理	61
01 経営戦略の策定について		経営戦略の中間改定	63
策定の趣旨	3	06 事業24	
経営戦略の位置付け	5	良質な水道水質の維持	65
経営戦略の計画期間	6	汚水の適正処理の推進	67
計画の構造	7	公共用水域への汚水流出防止	69
02 堺市上下水道の現状と課題		水道施設の維持修繕・更新・最適化	70
水道事業の現状	9	下水道施設の維持・改築修繕・最適化	73
下水道事業の現状	11	水道施設の耐震化・バックアップ	75
上下水道事業を取り巻く社会情勢	13	下水道施設の耐震化	77
上下水道事業の抱える課題	17	雨水整備の推進	79
03 経営戦略のゴールと施策体系		災害対応力の強化	81
経営戦略のゴールと施策体系	21	飲料水の確保	83
04 各政策における施策と事業		自助・共助の啓発（平時の情報発信）	84
政策01 市民の健康と快適な暮らしの確保	23	災害情報の発信（非常時の情報発信）	86
施策01 良質な水道水質の維持	24	挑戦する人材の育成	87
施策02 安全で良好な水環境の維持	25	魅力ある組織の構築	88
施策03 戦略的な上下水道施設の管理	26	DX推進	89
TOPIC01 水道施設の最適化・更新	27	収支バランスの改善（水道事業）	90
TOPIC02 下水道施設の最適化・改築修繕	29	収支バランスの改善（下水道事業）	95
政策02 災害時の飲料水と衛生環境の確保	31	広域連携の推進	100
施策01 発災時における上下水道機能の確保	32	公民連携の推進	101
施策02 浸水対策の推進	33	包括的民間委託のモニタリング及び効果検証	102
施策03 上下水道の被災に備えた対策の推進（公助）	35	来庁レス・キャッシュレス・ペーパーレスの推進	103
施策04 自助・共助の活動促進	36	利用者との相互理解	105
TOPIC03 危機管理体制	37	エネルギー使用量の削減	107
TOPIC04 下水道施設の耐震化	39	再生可能エネルギーの利用推進	108
TOPIC05 浸水対策の推進	41	07 資料	
政策03 安定した経営の実現	43	策定の経過	資-1
施策01 企業力の向上	44	用語解説	資-3
施策02 経営基盤の強化	45		
TOPIC06 財政計画について その1	47		
TOPIC06 財政計画について その2	49		
TOPIC07 広域連携と公民連携	51		
政策04 信頼される上下水道へ	53		
施策01 利用者の利便性の向上	54		
施策02 利用者との信頼関係の構築	55		
施策03 カーボンニュートラルへの貢献	56		
TOPIC08 DXの推進	57		

堺市上下水道事業経営戦略2023-2030

めざすべき姿

イノベーティブで「SMART」な上下水道
- 変化に柔軟で、最適な上下水道システム -

3つのゴール

めざすべき姿を具体化するため、3つのゴールを定め、その達成度を評価するためのKGI（Key Goal Indicator：重要目標達成指標）を設定しました。

安全・安心
の戦略

ゴール

上下水道施設の適切な資産管理

安定・持続
の戦略

ゴール

持続可能な経営

信頼・サービスの戦略

ゴール

事業に対する理解度・利便性向上

他都市のビジョン（②上下水道事業：目次・施策体系）



北九州市上下水道事業基本計画2030

目次

第1章 策定の趣旨

1 策定の経緯	1
2 対象事業	1
3 位置付け	2

第2章 上下水道事業の概況

1 水道事業	3
2 水道用水供給事業	5
3 工業用水道事業	7
4 下水道事業	9

第3章 現状と課題

1 経営環境の変化	11
2 地震や大雨、その他の災害リスクなどへの備え	18
3 施設の老朽化への対応	23
4 安全な水の供給	26
5 環境負荷の低減	29
6 国内外への貢献	31
7 お客様の理解と信頼	36

第4章 基本理念と将来像

1 基本理念	37
2 10年後の目指すべき将来像	38

第5章 重点施策と収支見通し

1 重点施策	39
2 長期収支見通し	63
3 進捗管理	67

資料編

策定の経過	69
用語解説	73

2 10年後の目指すべき将来像

本計画で掲げた基本理念のもと、今後10年間、さらにはその先の将来まで見すえて事業展開を進めていくにあたり、目指すべき将来像を次のとおり定めました。
これらの将来像を柱に、各施策に取り組んでいきます。

1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる

上下水道の強靱化を推進し、災害に強い安全なまちづくりに貢献して、市民の生活を守る

2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける

高い技術を駆使し、いつでもお客さまに安心して飲んでもらえる安全な水を届ける

3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する

環境首都北九州市にふさわしい環境負荷に配慮した事業をこれからも実施していく

4 国内外へ貢献していく

北九州市の技術を国内外へ提供し、相互発展していく

5 お客さまが求めるものをかたちにする

多様化するお客さまのニーズを的確に把握し、施策に反映させていく

6 培われた高い技術を未来へつなぐ

100年を超える歴史のなかで培われた高い技術力を次世代へ継承していく

7 健全な経営を行う

人口の減少が見込まれる状況においても、お客さまへ質の高いサービスを提供しつつ、健全経営を持続させていく

他都市のビジョン（②上下水道事業：目次・施策体系）



熊本市上下水道事業経営戦略

目次

第1章 改定の経緯

1-1	計画見直しの背景と目的	1
1-2	計画期間と対象事業	2
1-3	計画の位置づけ	3

第2章 熊本市の上下水道

2-1	水道事業の概要と現況	4
2-2	下水道事業の概要と現況	8
2-3	工業用水道事業の概要と現況	12

第3章 事業を取り巻く環境

3-1	人口と水需要	14
3-2	水資源	18
3-3	水環境	21
3-4	熊本地震等を踏まえた災害への備え	22
3-5	局地化、集中化、激甚化する雨	25
3-6	カーボンニュートラルの実現	27
3-7	お客さま満足度	29
3-8	施設の老朽化	32
3-9	職員の状況	35
3-10	料金等収入	37

第4章 理念・目指す将来像と基本方針

4-1	理念	39
4-2	目指す将来像	39
4-3	基本方針	42
4-4	施策体系図	52
4-5	検証指標	53

第5章 実施計画と進捗管理

5-1	実施計画	54
5-2	進捗管理	54

理 念

将来像

基 本 方 針

上質な上下水道サービスを提供し続けます

安全
安心

1.適切な維持管理と計画的な整備

2.災害に強い上下水道の確立

環境
保全

3.水循環の保全

4.資源・エネルギーの循環促進

信
頼

5.お客さまの視点に立ったサービス提供

6.お客さまから信頼される職員の育成

持
続

7.財政の見通しに基づく事業経営

8.経営基盤の強化

他都市のビジョン（③見せ方の工夫等）



横浜水道長期ビジョン

将来のイメージ※1 会社員 S 氏のある夏の朝の情景



鳥のさえずりが聞こえる。カーテンを通して朝日が部屋に射し込んでいる。きょうも朝から暑い。シャワーを浴びて体を目覚めさせる。頭のとっ辺からつま先まで生気がよみがえってくる。体を拭き、うちわで扇ぎながら水を一杯飲む。冷たくてうまい。健康のため、起床時と就寝前は水を飲むことにしている。

ふと、この水はどこから来ているのだろうと思い、スマートメーター※2で調べてみた。山梨県の道志村から流れる川の水を旭区にある川井浄水場で浄水し、家まで送られているとのことだ。国の水質基準よりはるかに良質な水であることが数値で示されている。この地域の配水管は耐震化されていて、震災時も断水する可能性は低いようだ。

我が家は水道・電気・ガスがセットの割引コースにしている。料金などの手続きも窓口が一本なので、便利で助かる。昨日、今月の使用量を見たら水道の使用量がやや多かったので、スマートメーターを介して水道局に漏水をチェックしてもらったが、異常ないということだった。今月は息子が夏休みで帰省し、人が増えたからか。

私の父は早くに亡くなり、高齢の母が隣の区で一人で暮らしている。最近足腰もだいたい弱ってきて、外に出るのも億劫のようだ。一人暮らしで何かあったら心配なので、水道局の安心見守りオプションを付けている。水道の使用状況を毎日チェックし、不自然な時に連絡をもらえるサービスだ。万全とは言えないが、公共機関と一緒に見守ってくれているようで、少し心強い。

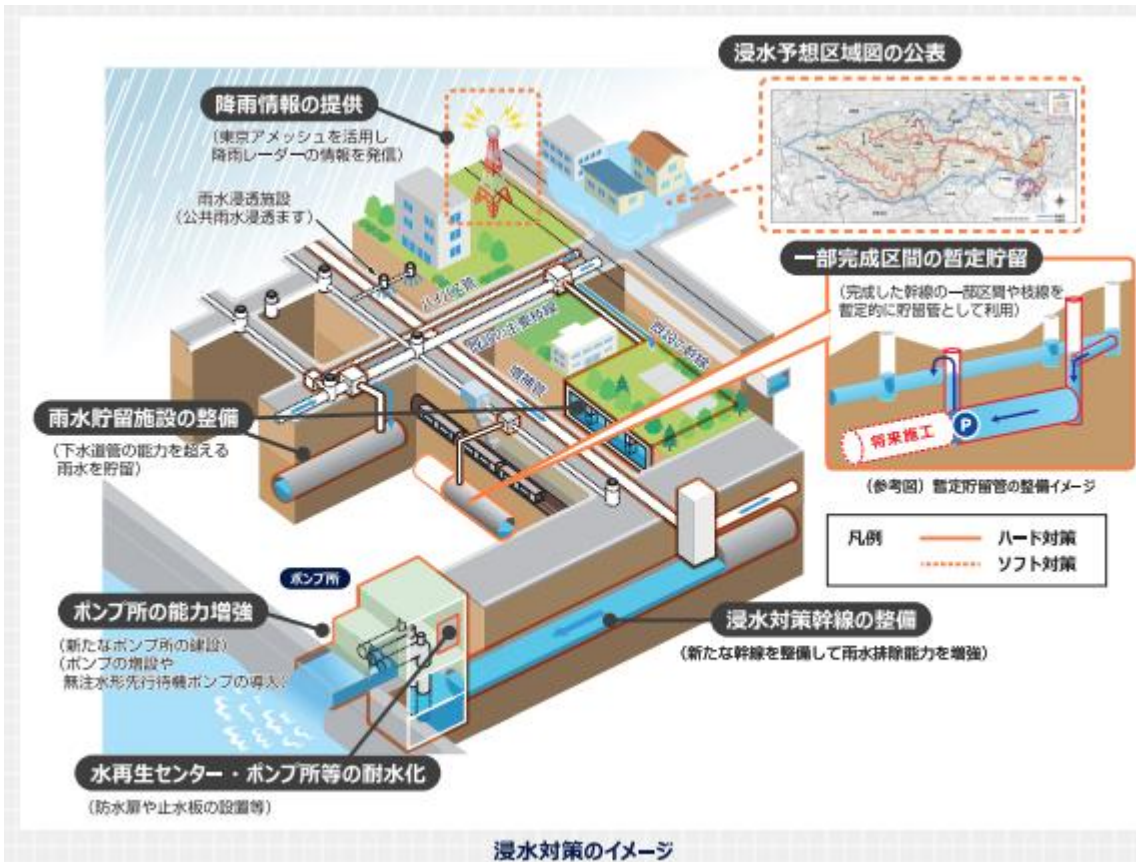
いけない、もうこんな時間だ。きょうは一日中外回りなので、熱中症にならないよう、水筒に氷水を入れていこう。

「主人公」の視点で将来の暮らしと
水道事業の関わりを小説風に表現

他都市のビジョン（③見せ方の工夫等）



東京都下水道事業経営計画2026



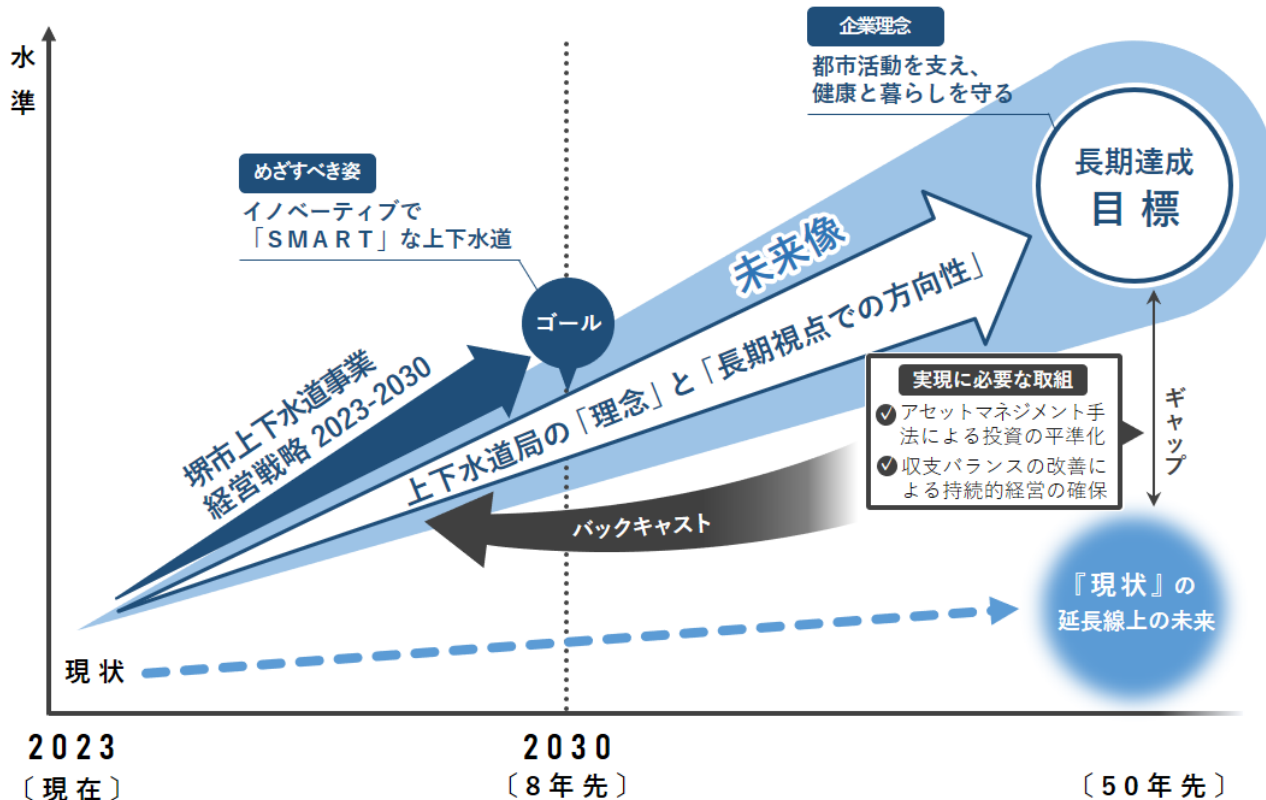
施策の内容をイラストで
分かりやすく解説

他都市のビジョン（③見せ方の工夫等）



堺市上下水道事業経営戦略(2023-2030)

〔経営戦略の位置付け〕



経営戦略の位置付けを
視覚的に表現

他都市のビジョン（③見せ方の工夫等）



札幌市下水道ビジョン2030

Column コラム

下水道事業を家庭に例えると 下水道事業会計の2018年度（平成30年度）の収支

収入と支出を1万分の1に縮小し、家計に例えて示すと…

収入	支出
● 給料 基本給（下水道使用料） 209万円 諸手当（一般会計繰入金） 200万円 ● 親からの援助（国庫交付金） 38万円 ● ローン（企業債） 130万円 ● その他（雑収入） 10万円 収入総額 587万円	● 食費（職員給与費） 31万円 ● 光熱水費、日用品の購入、電化製品 や家屋・自動車の修理（諸経費） 156万円 ● 家屋の改築（建設事業費） 180万円 ● ローン返済（企業債元利償還金） 217万円 ● その他（雑支出） 1万円 支出総額 585万円

● 貯金残高（累積資金残高） : 74万円
● ローン残高（企業債未償還残高） : 2,444万円
● 総資産額（管路・処理施設などの資産） : 5,900万円

どうして、これから財政状況は厳しくなるんだろう？

上記では、下水道事業会計を給料が約400万円、約6,000万円の資産（家屋や自動車、その他家財など）を所有する家庭に例えています。2018年度の家計は、収入と支出がほぼ均衡しており、貯金は給料の2割程度の74万円です。この家庭では、これまで家族が増えるにつれて家屋を増築してきており、今では給料の約15倍に相当する大きな家屋に住んでいます。今後、同居する家族は減っていく見通しですが、住み続ける家族がいる限り、相応の資産を守り続けなければなりません。近年はこれらの資産も古くなって改築や修理の費用が増えており、2018年度は給料の半分近くに相当する180万円を改築に費やした一方、給料は伸び悩み、貯金も十分ではありません。これまでは食費や光熱費などの節約に努め、家計をやりくりしてきましたが、今後は給料が減る見通しに加え、改築や修理の費用がこれまで以上にかさみ、ローンの返済も重くなる見通しです。

収入 減少見通し

基本給（下水道使用料）

支出 増加見通し

電化製品や家屋・自動車の修理（諸経費）
ローンの返済（企業債元利償還金）

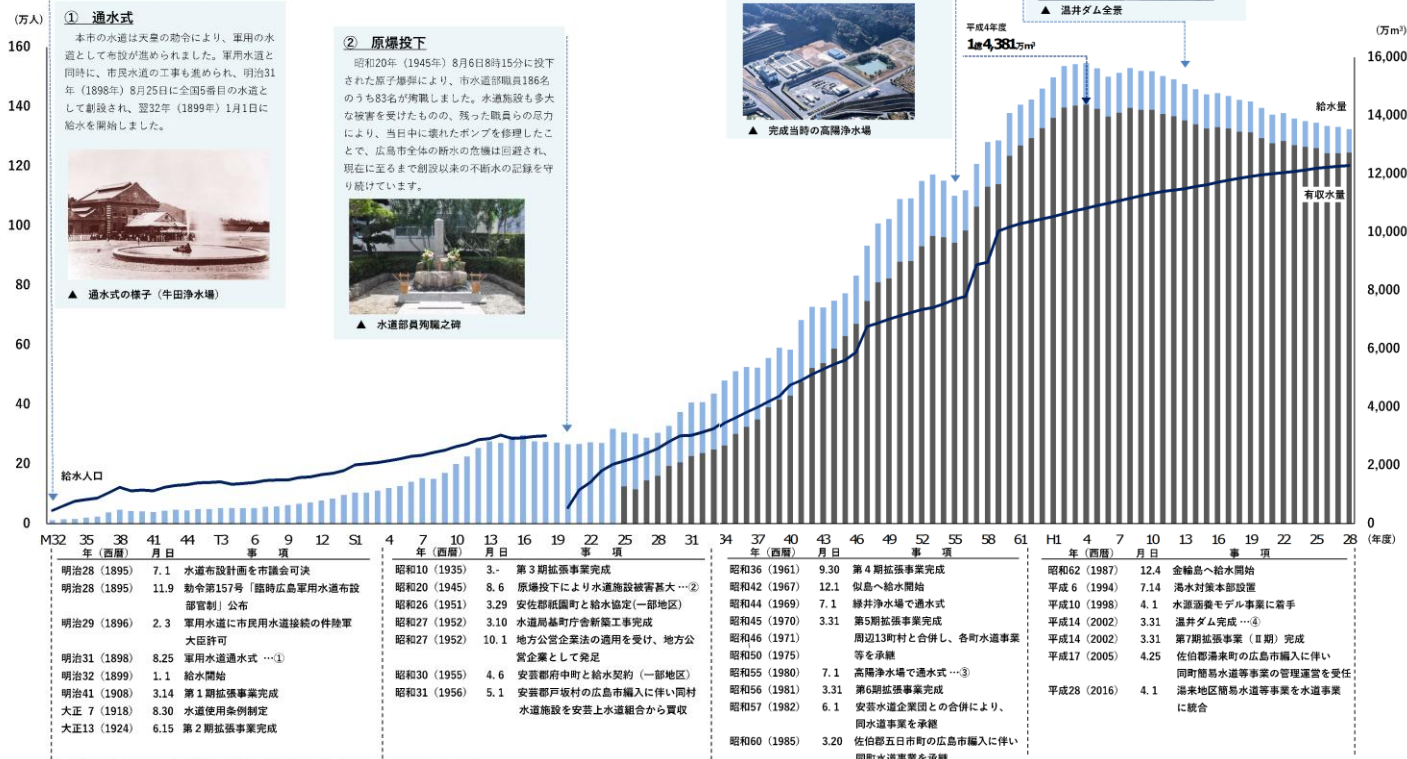
このため、このままの状態を続けていくと、いずれは生活が成り立たなくなるおそれがあります。

コラムを用いた 事業内容の解説

他都市のビジョン（③見せ方の工夫等）



広島市水道ビジョン



給水量の推移と
あわせて沿革を説明